

TOSHIBA

Leading Innovation >>>

FUTURE DESIGN

vol. **44**

安全で快適なエレベーターの
未来をデザインする

2 0 1 5

高野山、 バリアフリーの 旅

特集 ● 交通と都市の未来形
開創1200年

東芝エレベータ株式会社
TOSHIBA ELEVATOR AND BUILDING SYSTEMS CORPORATION

FUTURE DESIGN

vol. 44
2 0 1 5

安全で快適なエレベーターの
未来をデザインする

（ アンケートにご協力ください ）

『FUTURE DESIGN』 vol.44に対するご感想をお寄せください。和歌山県田辺市にある「立木染 虹の木工房」手づくりのウッドペンダントあるいはウッドループタイを、抽選で各5名様にお送りします。

立木染は、生きている立ち木に染料を吸わせ、水分が引き上げられる蒸散作用を利用して木を染める技術で、同工房が独自に開発しました。神秘的な色合いや模様は、木の染まり具合や木目などによって変わるため、世界に同じものが2つとありません。なお、模様や色合いはお選びいただけない旨ご了承ください。



●応募方法

同封のがきまたはFAX用紙、E-mailでご意見をお送りください。その際、ご希望の商品（「ペンダント」あるいは「ループタイ」のいずれか）を必ずご記入ください。

●締め切り

2016年2月29日到着分まで有効。

東芝エレベータ株式会社 FUTURE DESIGN

vol.44 2015

2015年11月30日発行 発行 東芝エレベータ株式会社 広報室

〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34

電話 (044)331-7001

URL <http://www.toshiba-elevator.co.jp>

E-mail elevator@po.toshiba.co.jp

制作 有限会社イー・クラフト＋有限会社ベル・プロダクション デザイン 手塚みゆき
印刷会社 株式会社メディア グラフィックス

CONTENTS

03-09 特集●交通と都市の未来形

開創1200年

高野山、バリアフリーの旅

奥之院までの道のりと宿坊を楽しむ

10-13 ユーザー訪問●乗り心地、いかがですか？
vol.13

サンシャイン60

14-15 新連載●お江戸の楽しい歩き方 第1回

江戸城周辺

16-17 連載●私の忘れられない本・映画・音楽 第10回

武田 双雲さん

18-19 連載●がんばる地方都市 第8回

和歌山県田辺市

20 連載●おもて菓子 第4回

笹巻 あんぷ

【表紙解説】



高野山には、壇上伽藍（だんじょうがらん）と奥之院（おくのいん）と呼ばれる2つの聖地があり、なかでも弘法大師御廟（ごびょう）がある奥之院は、高野山の信仰の中心ともいえるエリアです。御廟へと向かう参道沿いには、親鸞、法然、諸大名などの墓石や供養塔、祈念碑が、樹齢数百年の杉木立のなかに立ち並び、その数は数十万基ともいわれています。宗派や敵味方の区別なく受け入れてくれる高野山はまさに「祈りの空間」で、浮き世のしがらみをいつときでも忘れられる安らぎを与えてくれます。



地球環境に配慮した植物油インキを使用しています。

特集●交通と都市の未来形

開創1200年

高野山、 バリアフリーの旅

奥之院までの道のりと宿坊を楽しむ

弘法大師空海が開いた真言密教の聖地・高野山は、年間約140万人が国内外から訪れる世界的観光地。

2004年にユネスコの世界遺産に登録され、開創1200年を迎えた2015年は、いっその賑わいを見せている。

高野山は、高い山々に囲まれた標高約900mの盆地に広がっている。

かつての参詣は、長い山道を登るしかなかったが、現代では、公共交通で訪れられるのはもちろん、

バリアフリー化の取り組みで山内各所の参詣も容易になったという。

今回の特集は、実際に車いすを利用しながら、高野山を楽しむ旅の交通ルートや宿坊を探ってみよう。



ライター

奥島 俊輔 おくしま じゅんすけ

編集プロダクション勤務を経て、フリーランスのライター・編集者として独立。企業・団体の広報誌、書籍、雑誌など様々なメディアで、科学・技術読物から歴史、民俗、宗教まで幅広い分野を手がける。近年は「禅」を中心に、仏教にかかわる仕事も多い。

モデル

後藤 鈴子 こうづ けいこ

学校案内、企業PR誌、大手広告代理店の広報誌、新聞など、多彩なジャンルで活躍するライター兼編集者。株式会社宣伝会議、株式会社ユー・シー・ユーなどで勤務したあとに独立し、有限会社ベル・プロダクションを設立した。医療系の実用書も得意とする。



奥之院

弘法大師御廟
燈籠堂

（ひびょうばし
御廟橋）

南海電鉄なんば駅

大阪府

南海電鉄 高野線

極楽橋駅

南海電鉄鋼索線

高野山駅

和歌山県

金の河（三途の川）

中の橋

参道

一の橋

光海珈琲

なんしん
南院

こんこうぶじ
金剛峯寺

そうじいん
總持院

こんぽんだい
根本大塔

西塔

中門

だんじょうがらん
壇上加藍





乗車した特急「こうや」は、蒔絵のような記念デザインの「黒こうや」。地色の異なる「赤こうや」と「紫こうや」もある。

特急「こうや」



なんば駅

バリアフリーポイント

公共交通を乗り継いで、いざ、高野山へ！

高野山の旅で利用する公共交通は近年バリアフリー化が進む。まずは、それを利用する道のりをご案内しよう。



駅係員は介助・接遇のスキルアップ研修も受けている。乗車した特急「こうや」は座席ヘッドカバーや客室通路も特別デザイン。車掌は全員が女性という。



バリアフリーポイント



駅



バリアフリーポイント



極楽橋駅のバリアフリートイレ。オストメイト（人工肛門や人工膀胱を持つ人）対応設備、大人用の多目的シートなどが完備されている。



南海電気鉄道株式会社
営業推進室 営業部
やまこ・たかあき
山登孝昭氏



大阪のなんば駅から
特急で約1時間半

今回の旅の起点は、南海電鉄のターミナル駅「なんば」。同駅が始発の特急「こうや」に乗る。南海電鉄高野線の終着駅「極楽橋」までは約1時間20分。そこで高野山ケーブル（南海電鉄鋼索線）に乗り換え、わずか5分で高野山の玄関口「高野山駅」に到着する。

高野山は、山の名ではない。そこは紀伊半島のほぼ中央に位置し、1000m級の山々を連の花びらのように周囲に巡らす標高約900mの盆地だ。1200年前、空海はこの地に道場を開き、社会の安寧と人々の幸福を願い、教えを伝え、人材の育成にも取り組んだ。江戸時代には7つの登山ルートが確立されていたものの、参詣には相応の苦勞を伴った。しかし現代では、電車やケーブルカー、バスといった公共交通機関を利用できる。また、近年は、障がいの有無にかかわらず、誰もが社会参加できるようにする「ノーモライゼーション」の考え方が広まりつつある。高野山においても、様々なバリアフリー化の取り組みがなされ、より多くの人が安全・安心に参拝や

車いす利用者にも高齢者にも 安心な高野山参詣・観光のために

山登 孝昭氏

今年4月2日から50日間行われた開創1200年記念大法会(ほうご)の期間中、こんなことがありました。

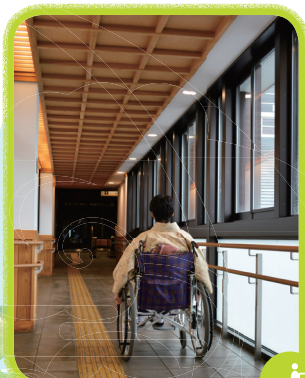
フランスから酸素吸入器をつけた青年が車いすでお母様と高野山へおいでになり、これまでになく混雑しているなか、お母様が「車いすですバスに乗れますか？」と申し訳なさそうにおっしゃいます。もちろん車両をやりくりしてノンステップバスにご乗車いただいたのですが、お母様は涙を流して繰り返し「メルシー」と感謝してくださいました。

鉄道は公共交通。その使命は、安全、快適、低廉、正確、迅速の5つですが、より多くの方にご利用いただくため、駅や車両、人的介助によるバリアフリー化も欠かせません。高野山への旅のバリアフリー化は、2000年の「交通バリアフリー法」施行がきっかけです。高野町が2006年に「高野町移動等円滑化基本構想」を策定する際に実施した調査の結果を参考に組み、2009年には、高野町とともに「第3回 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰」を受賞しました。今後は、ますます増加する外国人観光客への対応を含め、さらに利用者に配慮した公共交通を目指したいと思っています。



1930年開業時の姿をとどめる高野山駅。改札口への連絡通路には高野霊木(杉)を用い、山の野田気演出している。

高野山駅



南海りんかんバスのノンステップバス。基本的に運転士が乗車をサポート。車いすは車内でしっかりと固定してくれる。



車内へは階段昇降機で。最大約30度の斜面を登るケーブルカーは、2両編成260人乗り。

極楽橋

観光を楽しめるようになった。
ケーブルカーやバスも
バリアフリー対応

特急「こうや」の31000系には、車いすスペースが編成車両内に1カ所ある。極楽橋駅には、緩い坂を上った先に急勾配で階段状のケーブルカー乗降場がある。ここでは連絡を受けた駅係員が待ち受け、階段昇降機と渡し板を使って乗車させてくれた。

南海電気鉄道株式会社営業推進室の山登孝昭氏によると、バリアフリー化後、鉄道・ケーブルとともに車いすでの利用者が増えており、1日平均1人だが、8人が利用した日もあったという。

高野山駅ではエレベーターを利用できるため、大きな荷物を持った来訪者も助かるだろう。高野山駅からは南海りんかんバスを利用する。同社高野山営業所のバス15台のうちノンステップバスは4台だが、「鉄道からの情報やお客様からのご連絡に合わせて車両を手配するなど、できる限り対応します」と山登氏。バスには運転士の手慣れた介助で乗り込める。



金剛峯寺の建物内部にはリフトやスロープが整備され、車いすで拝観できる。



金剛峯寺



3つで一度に2000人分の飯を炊ける「二石の釜」。



172年ぶりに再建された中門。今年4月2日に落慶法要が行われた。堂宮大工筆頭として尾上氏が再建の指揮を執り、鎌倉時代の建物が再現された。



高さ48.5mの根本大塔。大塔ともいう。内部は胎蔵界大日如来を中心とする立体曼荼羅。1937年の再建。



壇上伽藍の北西に位置する西塔。内部は金剛界大日如来を中心とする立体曼陀羅で、胎蔵界大日如来を本尊とする根本大塔と対をなす。1834年の再建。

壇上伽藍



総本山金剛峯寺と
高野山二大聖地に行く

山内の一番の見どころは、金剛峯寺と二大聖地の壇上伽藍、奥之院だ。スロープやリフトなどの設置が進み、車いすでの参詣も可能だ。



私がご案内します
堂宮大工・金剛峯寺内
境内案内人
尾上恵治氏

職員に遠慮なく声をかけよう。

壇上伽藍の建物外はどこでも車いすで行けるが、建物に上る場合は、僧侶をはじめ職員に遠慮なく声をかけよう。

次に訪れたのは、主要な法要が行われ、高野山の中心である壇上伽藍。入口は今年再建された中門で、その左側にあるスロープを上ると、高野山の総本堂の金堂、その先に根本大塔がある。根本大塔は、密教の根本道場を象徴する堂で、必ず拝観したい。だが、入口は高い基壇上にあり、スロープはない。すると、札所から2人の僧侶が駆けつけ、車いすごと持ち上げてくれた。この対応を尾上氏はこう説明する。

「お寺では、高さや段差で崇高さを表現する例も多い。高野山には、そういった場所に番僧を置いて介助させる『マンパワ』のバリアフリーが古くからあるのです」

リフトやスロープを備えた金剛峯寺と壇上伽藍

高野山は、堂宮大工で金剛峯寺公認の境内案内人・尾上恵治氏に案内していただいた。

高野山に古くから受け継がれる心のバリアフリーも大切に

尾上恵治氏

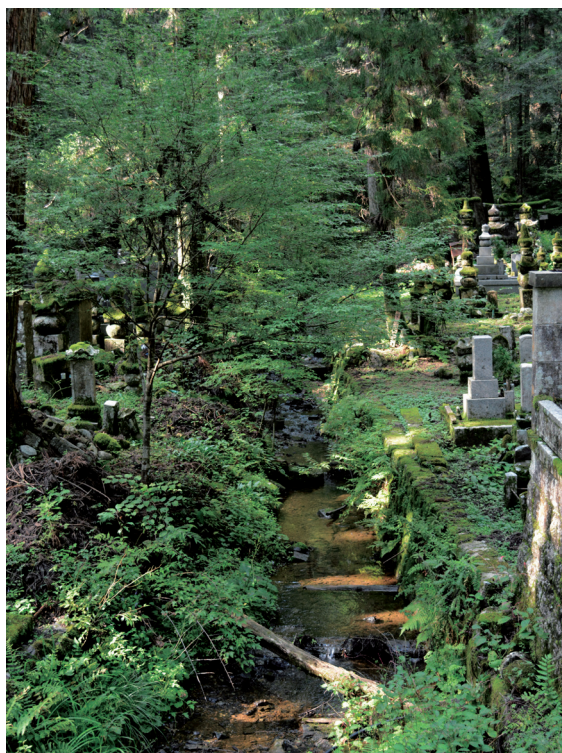
「世界遺産はどこにありますか？」とよく聞かれますが、その質問には「高野山と、あなたが来山くださったことが世界遺産です」と答えています。1200年にわたってお参りに来てくれる方がいる。それが高野山という文化的景観をつくってきたのです。

バリアフリー化に関しては、金剛峯寺をはじめ山内の様々な場所でも設計・施工を手がけています。しかし、手すりやスロープを設置しても、助け合いは続けてほしいと願っています。高野山では、人は皆、一人ではなく、つながっていると考えます。車いすを喜んで運び上げる人の姿や助けられる人の笑顔を見て、周囲の人の心にも安心が芽生える。高野山は古くからそうしてきたように思います。今という「心のバリアフリー」に近いかもしれませんね。

ハード面のバリアフリー化が進めば、さらに多くの方が訪れてくれるかもしれません。しかし、高野山に来たら助け合うことがうれしいと思う高野山の人々の気持ちをぜひ知ってください。そういう意味で、車いすも設備も、人と人をつなぐハードたりつると私は思っています。



1960年生まれ。和歌山県の世界遺産マスター第2期生。一級建築士でもあり、中門の再建も指揮した。著書に『世界遺産マスターが語る高野山』（新評論）がある。



奥之院の参道。中の橋が架かる金の河（三途[さんず]の川の隠語）の先は来世とも。

参道



参道には、階段のある場所にこうしたスロープが適宜設置されている。写真は御廟橋手前のもの。景観になじむ自然なデザインだ。



光海珈琲



昨年秋、一の橋から約50mの地点にオープンした光海珈琲。写真は、高野山の麓・橋本市の特産「ひね鶏」を使った「ひねキングカレー」。コーヒーは高野山の湧水でいれている。



奥之院



御廟橋。正面に見えるのが燈籠堂で、御廟はその裏側。車いすでの参拝は、この橋を渡らず専用の参拝通路とスロープを使う。

快く手助けしてくれる。

車いすでゆっくり歩む

奥之院の参拝

壇上伽藍と並ぶ高野山の聖地が奥之院だ。高野山東部に広がる領域で、最奥に空海の御廟がある。835（承和2）年の入定以来、空海は今もそこで瞑想を続けているという。

参拝は奥之院の入口「一の橋」から歩きたい。燈籠堂（御廟の拝殿）までの約2kmは石畳で、少し傾斜のある場所もあるが、介助があれば移動できる。参道には車いす対応のトイレが2カ所ある。

燈籠堂の見える参道最後の橋、御廟橋には、空海が迎えに来てくれるという。人々は橋の手前で帽子をとって合掌し、橋を渡る。車いすで参拝する場合は、橋の手前で右手に折れ、専用の参拝通路を通る。これを進むと、燈籠堂や御廟へ向かうスロープがある。

参道脇の供養塔や墓碑は数十万基ともいわれている。高野攻めをした織田信長や敵軍の慰霊碑、景教（キリスト教）の碑まであり、鳥居も多い。ここでは神仏が等しく敬われ、誰もが平等だ。ただ、これらの碑にはスロープがないところもあるためご注意ください。



- 約890年前の大治年間に開創
- 宿泊棟はすべて車いすで移動できるように改裝済み



普賢院の浴室。高野山の湧水を沸かす高野槇(まき)製の浴槽は掘り下げ式に近く、まったく高さが低い。室内は介助者も動きやすい広さだ。

南院
なんいん

- 平安時代中期の創建
- 空海手彫りの秘仏・波切不動明王が本尊



精進料理は、一般的に本膳と二の膳からなる。写真は南院の秋冬のスタンダードな献立。



- 約870年前の久安年間に開創
- エレベーターを設置するなどバリアフリー化に注力

総持院
そうじいん



総持院の精進料理(10月の二の膳)。揚げ物や煮物が並ぶ二の膳は、とりわけ季節感が溢れる。京都で20年以上の修行を積んだ料理長による現代風な精進懐石料理。

バリアフリー化を進める宿坊で高野山の味わいも満喫

日帰りが難しかった立地上、寺院の多くは古くからの宿坊だ。バリアフリー化の取り組みは、もちろん宿坊でも進んでいる。

私がご案内します



一般社団法人
高野山宿坊協会
所長代理
かわさき かつなり
川崎 祐二氏

宿坊でも進むバリアフリー化

高野山で宿泊するならぜひ宿坊を利用したい。高野山宿坊協会の川崎祐二氏によると、宿坊は現在52カ寺。トイレはおおむね洋式化され、段差の解消、手すりやスロープ、エレベーターの設置に取り組む宿坊も増えている。川崎氏は「高齢のため歩行に不安がある、介助者と一緒に車いすで滞在したいといったお問い合わせは多いです」と語る。

構造上、バリアフリー化が困難な部分もあるが、その場合は、どの宿坊も人的介助でカバーしているという。

宿坊といえば、朝の勤行、瞑想や写経などの体験のほか、精進料理が味わえる。胡麻豆腐、生麩、高野豆腐など当地の食材も楽しみだ。精進料理は、仏戒に基づき肉や魚貝、スパイスや臭いの強いネギなども使わない。そして精進とは、仏道修行に専心すること。シンプルに見えるが、工夫と手間を惜しまずにつくる。

食べるのも修行のひとつだ。命をいただくことに感謝してかみしめ、もてなしの心をもいただくと、自然を含むすべてのつながりのありがたさを感じられた気がした。



住民と参拝者、観光客のために 町内のバリアフリー化を推進

高野町 企画公室 企画・広報係長

辻本 和也氏



つじもと・かずや●1994年、高野町役場入庁。総務課、企画課などを経て、2011年、企画財政課IT推進係長に就任。同課企画係長を経て、2015年4月より現職。



山内の随所にある観光案内板の書体や絵、表示方法などを統一。情報提供におけるバリアフリー化といえる。



高野町は2008年に景観行政団体となった。トイレのバリアフリー化を推進する際にも景観に配慮したデザインを採用している。

バリアフリー化でゆっくり旅が増加

高野町では、2006年に「高野町移動等円滑化基本構想」を策定しました。「バリアフリー新法」が施行された同年のことです。以後継続的に、関係機関・事業者と連携しながら、極楽橋駅と高野山駅のバリアフリー化、山内11カ所の公衆トイレの多機能トイレ化、ノンステップバスの導入、スクランブル交差点の導入、観光案内板のデザイン統一、ベンチ整備などを進めてきました。

取り組みのきっかけは、高野山へお越しになる方々の声です。場所柄、来訪者はやはり高齢者が多く、トイレや公共交通、宿泊施設のバリアフリー化を望む声は、以前から数多く寄せられていました。

最大の問題は、ケーブルカーでした。プラットホームは階段状にせざるをえず、高野山の場合、かなりの急勾配で足の悪い方には危険でした。車いす利用者に対して、以前は、複数の駅係員が車いすごと持ち上げてホームを上っていたのです。そのため、車いすはもちろん、杖や介助を必要とする方は、ケーブルカーを避け、自動車で来られることがほとんどでした。

駅をバリアフリー化したあとは、鉄道とケーブルカーで来られる方が増え、昨年度は、来訪者約142万人のうち約2割の約27万人が公共交通を利用して高野山へ来られました。「今まで車で行くしかなかったが、鉄道とケーブルカーでのんびり行けるようになってよかった」という感謝の声もいただいています。

高野山だからこそ、どんな方にも優しいまちに

高野山は今、来訪者の7割が観光客で、首都圏や海外からの個人旅行者が増えています。こうした方々のほとんどは鉄道とケーブルカーで来られて、山内を徒歩で周遊されます。参拝者の減少は残念ですが、歩いてゆっくりと高野山を楽しむ方が増えているのはうれしい限りです。

高野町では現在「高野町総合交通計画」のもと、歩いて周遊できる観光地づくりに注力しています。渋滞や路上駐車をなくし、昔の荘厳な高野山を取り戻す。そこをゆっくり歩いてこそ“本当の高野山”を肌で感じられるというコンセプトです。となると、バリアフリー化は、やはり地域全体に及ぶ必要がありますが、それは住民にとっても必須です。高齢化で自動車を運転しなくなった方々が増え、公共交通の重要性は高まっていますし、高齢者がより安全に、安心して暮らせるまちづくりがこの先ますます重要になってきます。

もっとも、本当のバリアフリー化は、ハードの整備だけでは完成しません。ノンステップバスに乗ろうにも介助は必要です。皆で理解し、力を合わせて一人の人を支える「心のバリアフリー」も大切です。

以前、「お大師様が開かれた高野山ともあろう場所が、バリアフリーに対応していないとは……」というお叱りの手紙をいただいたことがあります。私もいつか高齢者となりますが、それでもやはり高野山に来たいと思います。お大師様の高野山だからこそ、どんな方でも平等にお越しいただける、住み続けられる場所でありたいと願っています。

サンシャイン60

大規模複合施設内の中核ビルとして
ハード・ソフトの両面で進化を続ける

超高層ビルの代名詞として、2008年に開業30周年の節目を迎えた「サンシャイン60」は、2006年以降エレベーターのリニューアル工事を進めてきた。その工事の完了後には、建物内の入退室管理とエレベーターとを連動させた新しいセキュリティ機能を導入し、来訪者や在勤者の安心・安全・快適の向上に日々努めている。ビルを管理する株式会社サンシャインシティの方々に、これらの経緯や苦労について伺った。

interview

株式会社サンシャインシティ
管理部次長若林 智彦氏
わかばやし・ともひこ株式会社サンシャインシティ
管理部次長山田 裕三氏
やまだ・ゆうぞう株式会社サンシャインシティ
管理部次長岡田 満氏
おかだ・みつる株式会社サンシャインシティ
管理部米澤 翔氏
よねざわ・しょう乗り心地、
いかがですか？毎日約2万人が
エレベーターを利用エレベーターと建物に
長周期地震動対策

サンシャインシティは、地上60階建て、高さ約240mの超高層ビル「サンシャイン60」、ワールドインポートマートビル、専門店街アルパ、文化会館、プリンスホテルなどが一体となった大規模複合施設で、延床面積は58万㎡を超える。東京を代表する人気スポットで、通常の土日で1日当たり9～10万人、ゴールデンウィークやお盆休みには1日当たり約13万人が訪れる。2014年度には年間来場者数が3050万人に達したほどだ。

サンシャイン60は、2008年の開業30周年の節目を見据えて、2000年初頭以降、昇降機を含む設備全体のリニューアル計画を順次進めてきた。エレベーターに限っても、超高層ビルで、しかもこれだけの台数があるため、リニューアルには時間も手間もかかる。サンシャイン60では、2006年から各バンクごとに1台ずつリニューアル工事を進め、最終的には2011年に全工程を完了した。

株式会社サンシャインシティ管理部長の山田裕三氏は、リニューアル工事を振り返ってこう語る。

「私は以前、昇降機の管理担当だったのでよく覚えていますが、当時、エレベーターの停止時の段差やショックを軽減してほしい、待ち時間を短くしてほしいなどのご要望が、お客様から寄せられていました。オフィスへの入居者が増えていたこともあり、思い切ってすべてのエレベーターをリニューアルすることにしました。」

リニューアルにより乗り心地が改善されたのに加え、車いすをお使いの方用の呼



▲エレベーターは群管理システムによって制御され、効率的な運行管理がされている。



▶「車いす兼用エレベーター」を一部導入し、より多くの利用者の利便性を高めた。



サンシャイン60

DATA

住所: 東京都豊島区東池袋3-1-1

施設: 地下4階 地上60階 塔屋3階建て

延床面積190,595㎡

基準階床面積3,159.36㎡

開業1978年

概要: 池袋副都心構想の中核施設として、また大規模民活プロジェクトの第1号として1978年にオープン。サンシャイン60を核とするサンシャインシティは、オフィス、商業施設、アミューズメント施設、文化施設、ホテルなどを擁する日本屈指の大規模複合施設で、年間約3050万人が来訪する。

びボタンや操作盤、手すり、ミラー、オートアナウンスも設置された。また、エレベーターの待ち時間を短縮するため、各エレベーターの動きを最適化する群管理システムも採用された。

管理部次長の若林智彦氏は「その後オフィス人口が急増し、朝晩の出退勤時間や昼休みには利用者が集中するので、群管理システムが導入されていたことか」と語る。

また、安全性をさらに強化するために、防災対策にも注力した。例えば地震対策の一環として、大規模地震が発生した際の長周期地震動でロープが絡まるのを防止する装置も導入した。

管理部次長で技術担当の岡田満氏は「エレベーターだけでなく、建物に対する長周

期地震動対策工事も2014年に着工し、2016年9月末に竣工予定です」と語る。

これは長周期地震動を吸収する3種類のダンパーを組み合わせて設置する日本初の工法だ。

「テナントのお客様にも、来訪されるお客様にも、安全・安心、そして快適性を提供することが私たちの使命だと思っています」と山田氏は語る。そのために、サンシャイン60では、2014年4月に一部のエレベーターにセキュリティ機能を導入し、2015年9月にはエレベーター全台への導入を実施した。この機能では、夜間など設定した時間帯や、フロアの

カードキーによって セキュリティ機能を強化

入居者全員が退勤したあとは、かご室内の行先階ボタンを押しても反応しない。入居者が持つICカードをかご室内のカードリーダーにかざすことで、利用権限のある行先階のボタンのみ反応するようになる仕組みだ。

「防犯カメラも併せて設置し、警備本部が遠隔監視できるようにもしたので、業務の効率が格段に向上しました」と若林氏は語る。

防災の観点からいえば、超

高層ビルではハード面の整備とともに、運用や保守管理などソフト面の改善も重要になる。2011年に発生した東日本大震災では、池袋も震度5弱に襲われたが、サンシャイン60のハード面に被害はなかった。問題は、地震で停止したエレベーターの復旧作業だが、その際、東芝エレベーターにはずいぶん助けられたと山田氏は語る。

「東芝エレベーターの保守担当の方が、夜間や土日でも対応

してくれるので助かっていました。東日本大震災の時も徹夜で作業を進めてくれました」
今年9月12日、最大震度5弱の地震が6時前に発生した時も、「早朝にもかかわらず、迅速に対応していただき助かりました。対応の早さは、オフィス賃貸でもセールスポイントになります」と若林氏は評価する。

トラブル防止には 日頃のメンテナンスが重要

山田氏は、東芝エレベーターの保守担当の誠実な対応に満足しているという。

「エレベーターは機械ですから、故障や不具合を完全になくすることはできません。重要なのは、それに対して迅速かつ真剣に対応することです。私たちが帰宅している夜間や土日にエレベーターに何かあれば、私たちが出勤してからすぐに東芝エレベーターは必ず報告してくれます。もちろん、当社の防災センターからも連絡は入りますが、東芝エレベーターは技術的な要素を詳しく説明してくれるので、お客様に正確に説明することができ、助かっています」

現在、エレベーターの管理を担当している管理部

の米澤翔氏はこう語る。

「東芝エレベーターの保守担当の方の説明はわかりやすく丁寧です。一方で、エレベーターもエスカレーターも、お客様のために営業時間内の不具合をなるべく減らしていきたいので、トラブルを未然に防ぐために日頃のメンテナンスは重要だと思っています」

山田氏はかつて、リニューアル前のエレベーターを管理していた時代を思い出し、こんなエピソードを語ってくれた。

「古い機械は、丁寧にメンテナンスすれば意外と長持ちしますが、それでも部品の劣化などにより想定外の故障が起こる場合があります。例えば、私が担当してい

た頃も想定外の不具合が発生したことがあり、東芝エレベーターに連絡すると、すぐに対応してくれてホッとしました。今はエレベーターをリニューアルしたばかりですが、それでも毎日古くなっていく。なるべく劣化を防ぎ、トラブルを防止するには日頃からのメンテナンスが不可欠です。保守担当の方には、今後も引き続き頑張ってくださいと思っています」

サンシャイン60では今後、エスカレーターのリニューアルも予定しており、工事の進め方を現在検討中だという。安全・安心・快適をさらに追求するために、サンシャインシティ管理部には、当面、席を温める暇はなさそうだ。



▲エレベーターのかご室内。定員は23名。



▶かご室の壁面に設置されたカードリーダー。ICカードをかざして利用する。

クリスマスシーズンには 特別イベントを開催

サンシャインシティでは、2015年11月12日から12月25日までクリスマス特別企画「トゥインクル・スター・クリスマス2015 サンシャインシティ〜キラキラ輝くあなたに贈るクリスマス〜」を開催する。噴水広場には、南極のオーロラの世界を表現した「トゥインクル・オーロラ・ツリー」が登場する。これは「コニカミノルタプラネタリウム」満天の「Sunshine City」のオーロラレーションで、高さ16mのオブジェに点灯するイルミネーションによってオーロラが浮かび上がる仕組みだ。スペイン階段では昨年大好評だった「シューティングスターイルミネーション」を本年も実施。水族館では水中パフォーマンス「サンタダイブ」を行う。

待できる。

現在、リニューアル中のサンシャイン60展望台は、2016年春に新たな装いで生まれ変わるため、来年は新展望台も期待できる。



クリスマスイベントのイメージ。

メーカーの立場から

大規模複合施設を守る 醍醐味

●営業の役割

工事スケジュールの調整に奔走

2012年、東京北支店に異動した免出耐志は、サンシャインシティを担当することになった。以前、板橋区に住んでいたことがある免出にとって、近くにあるサンシャインシティは身近な存在だった。「これほど大規模で有名な複合施設を担当することに、やりがいを感じました」という。

免出はそれまで、建物の用途変更に伴うエレベーターの改修工事の営業を主に担当しており、大規模複合施設の保守や改修工事の契約を担当するのは初めての経験だった。

「カードキーなどセキュリティ機能の追加や長周期地震動対策など、サンシャインシティ様から注文をいただくにあたり、当然納期があります。しかし、昼間は多くの方々が入り出るので、大きな工事は実施できません。どうしても夜間や休日、正月などの長期休暇中に集中的に施工することになり、工場や工事業者との調整、サンシャインシティ様との日程調整などが必要になります。それが一番大変でした」

トラブルは夜間、休日に発生することがあり、休んでいる技術者を呼び出す場合もあった。しかし、免出は「困難があったからこそお客様との信頼関係が強くなった」とほえんだ。

営業

東芝エレベータ
東京支社 東京北支店
営業担当
営業主任(当時)

免出 耐志

めんで・やすし
(現在)

中部支社 営業第二部
ビルシステム営業第一担当
ビルシステム営業主任



保守

東芝エレベータ
東京支社 東京北支店
池袋営業所
シニアフィールドエンジニア

坂井 誠

さかい・まこと

東芝エレベータ
東京支社 東京北支店
池袋営業所
フィールドエンジニア

渡辺 寛士

わたなべ・かんじ

●保守の役割

些細なトラブルにも迅速に対応

坂井誠は2012年に池袋営業所に異動し、サンシャインシティの保守担当となった。池袋営業所は、サンシャインシティに納入した昇降機の安全・安心・快適を担う保守業務の最前線だ。坂井はサンシャインシティの保守点検を担当したのち、現在は保守点検を行う技術員の安全・業務管理を主に行っている。

坂井のもとで現場を担当するのが渡辺寛士である。渡辺は2014年6月からサンシャインシティを担当している。当初は坂井の現場作業に同行して作業手順を学び、2015年4月からはチーフとして自ら保守点検の計画を立て、作業を任されるようになった。

坂井はサンシャインシティの保守業務の難しさについてこう語る。

「特殊な部品は、営業所に在庫を置いていないことがあります。部品交換が必要な際、特殊な部品であっても早急に交換すべく関係部門との連携が重要です。また、不具合が発生した際、そのひとつの不具合が何台の昇降機に影響する事象なのか、規模を見極めるのが難しい。そのため、どんなに些細な不具合でも、広い視野を持って迅速に対応しています」

現場を仕切っている渡辺はこう語る。

「特に営業時間内は、不具合の発生と昇降機の使用休止、どちらも極力避けなけれ

ばなりません。そのため、営業時間前の点検で不具合の兆候を発見した場合、営業時間までに不具合の芽を摘み取ったうえで通常どおり昇降機を使用いただくか、それとも昇降機の使用を休止し、夜間に安全性を確認したうえで使用を再開すべきかを判断する必要があります。サンシャインシティ様にも連絡し、最良の対応を心がけています」

大規模複合施設において、エスカレーターは必要不可欠だが、営業時間中は絶え間なく多くの方にご利用いただくため、点検作業にはことのほか気を遣う。

「エスカレーターでは、ご利用者が転倒・転落したり、衣服の裾や靴が機器に巻き込まれたりすることがあり、そうした際に被害を軽減すべく多くの安全装置が装備されています。ご利用者の安全を守るため、入念に点検しています」と坂井はいう。

渡辺にとっても、これほど大規模な複合施設を担当するのは初めてのである。

「点検台数が多く、部品交換や点検作業のたびに多くの仲間に協力してもらっています。チームワークによって仕事をやり遂げた時には充実感があります。お客様に感謝の言葉をいただくと、本当にうれしいですね」

坂井や渡辺のような保守のプロフェッショナルが、サンシャインシティの昇降機の安全・安心・快適を守っている。

【新連載】

お江戸の 楽しい 歩き方

第1回



師匠

地図研究家
芳賀啓さん

門人&文

タレント／歴史作家
堀口茉純さん
(愛称：ほーりー)

はが・ひろく・1949年生まれ。東京の古地図や地誌の研究者で、東京経済大学客員教授。テレビ朝日『タモリ倶楽部』などのテレビ番組にも出演。主な著書に『江戸の崖 東京の崖』(講談社)、『古地図で読み解く江戸 東京地形の謎』(二見書房)など。

ほりぐち・ますみ・1983年生まれ。2008年に江戸文化歴史検定一級を最年少で取得し、『江戸に詳しくすぎるタレント』お江戸ル(お江戸のアイドル)として知られる。主な著書に『TOKUGAWA15』(草思社)、『UKIYO E17』(中経出版)など。

江戸城周辺

② 紀伊国坂

文獻に「竹橋御門へくだる小坂をいふ。むかし此所に尾紀の両御殿ありしなり」とありますが、こは小坂ではなく、ロングスロープで、屋敷も800m以上の坂上でした。明暦の大火、明暦3(1657)年を契機に、御三家の屋敷は郭外に移されました。



大手濠

① 大手門

正面門のこと。古くは城郭の出入口を「虎口(こぐち)」といっており、大手門も虎口のひとつ。でも、こは元来地盤が弱く、東日本大震災でも大きく破壊して、修復されたばかり。



③ 北桔橋門

きたはねばしもん
「桔」という字には「け」とか「き」という音読みだけが、訓読みなし。意味は「はねつるべ」。乾濠と平川濠の間に架かる「跳ね橋」の下は水面まで約20m。



答

【宅】明暦の大火以前、竹橋から御濠ぎわにロングスロープのまっすぐの道が延びていましたが、上りきった手前左に、紀伊徳川家の豪壮な屋敷が存在了したため。

江戸城といえば、 紀伊国坂？

歴史大好き女子のほーりーです。芳賀啓師匠とともに東京のディープな歴史散策に出かけてきました！

今回は江戸城の正門だった大手門前からスタート。高麗門(※1)と渡り櫓門(※2)からなる右折れ櫓形の堅牢なつくりは天下の王城にふさわしく圧巻です。石垣が見事な濠端を横目に歩いていくと、紀伊国坂という標識の立つ緩やかな坂道に到着。師匠曰く、このあたりに徳川家康が江戸にやってくる前からすでに古街道が通っていて、江戸時代初期に江戸城を東西に貫くロングスロープが整備されたのだそう。坂道を上りきった場所に徳川御三家の紀伊大納言家の屋敷があったことが名前の由来で、小泉八雲の「貉」の舞台にもなった場所なんだとか。ムジナとは狸のことで、現在も皇居周辺を縄張りとする御所狸一族をはじめ、東京23区内に約1000匹も生息しているんですって。へー！

行け、坂道へ！

江戸城は武蔵野台地の東端につくられ、江戸時代初期までは目の前の日比谷、大手町のあ

【注】※1：門の形式のひとつで、城に多用されている。 ※2：石垣同士を結んで渡された櫓(渡り櫓)の下にある門。

江戸城天守閣跡。明暦の大火で焼けて以降は土台の石垣だけが残りました。石のひとつひとつがやたらに大きく、一面に自然に飛んだきた種が着床した松の木一本が生えていることが特徴です。



④ 天守台

【武】今では一般通行禁止の半蔵門ですが、明治の中頃までは誰でも竹橋まで通り抜けることができた。江戸城に取り込まれる以前の古道の名残です。

答



北桔橋からの風景。このあたりにムジナが寝んでいたとか。

城内にある、名前のついた3つの坂のうち、最も傾斜度の高い坂。眼下に光る海面を見たがゆえの命名ですが、ここは昇る朝日を拝む崖っぷちでした。江戸初期には、日比谷入江の汽水域と江戸前島の先の江戸湾の2つが見えたはず。



⑤ 汐見坂

学問好きの太田道灌が「本城」でもあった川越城から天神様を勧誘、梅の林もつけました、というのが通説。その傍を通る坂は江戸城3坂のひとつ。



⑥ 梅林坂

明治初期までは天神壕も蛤壕もつながってひとつの御溝。大手門を入って内側にはその御溝に架かる下乗(げじょう)橋を渡って内郭に入りました。



⑦ 天神壕

蓮池壕

⑧ 平川門

「平川」の河口近くだったから平川門。太田道灌の時代にはこの近くに上下2つの平川村があり、そこがご城下。平川は流路変更、上水に利用されるようになって、神田川と称されます。



【参】武蔵野台地の東端から、江戸湾と下総国を眼下に睨む地の利を得て、江戸城は造営された。汐見坂はその端的な例。梅林坂と紀伊国坂は平川河口に下りる坂です。

答



今回の締めの一句

秋水や月は下総日は武蔵

舊

ムジナ棲む紀伊国坂の秋時雨

坂



たりまで入り江が入り込んでいました。このため城の東側は台地の段丘崖を利用した地形になっているのですが、師匠にされるのが本丸と二の丸を結ぶ場所にある汐見坂とのこと。確かに反り立つような坂道！続いて向かった梅林坂は江戸城の裏門である平川門から大奥に通じる道にあり、こちらもなかなかの急勾配です。

いやあ、江戸城って、今行ってもなんにも残ってないんだよね、なんて思っていたので、坂道に注目するだけでこんなに歴史が感じられるなんてすごく新鮮でした。師匠はこういいます。「現在の東京の姿はもともとの地形に上着を着てお洒落している状態。裸だった石器時代、パンツをはいた縄文時代、アンダーシャツを着たのが江戸時代で、ワイシャツを着たのが昭和ってところかな」と。坂道などの地形に注目して、今見えている景色の下に埋もれた重層的な歴史を感じることが、東京散策の醍醐味なのかもしれませんね。

個性の和をもって貴しとなす

武田双雲

さん（書道家）

書が持つ力を実感し
書道家へ転身

書道家の武田双雲さんの経歴は面白い。母親の武田双葉さんが書道家だった影響で、幼い頃から書道は習っていた。とすれば、そのまま書道家への道を歩んだとしても不思議はない。しかし、小学校に入ると野球部で汗を流し、学習塾、音楽教室、空手教室にも通う日々を送り、書道への興味は次第に薄れていった。

高校1年生の時には、母親が買ってくれたアインシュタインの本を読み、宇宙の魅力に取り憑かれた。そこから理工系への興味が湧き、理工系大学の情報科学科に進んだ。卒業後は、情報通信会社に就職。職種は営業を希望した。情報科学出身なら普通技術職を考えるが、実は武田さんは機械が大の苦手だったのだ。いずれにしても、そこは書道から遠い場所だった。

書道へ回帰する機会は、あまりに突然訪れた。入社後、たまたま実家に帰った武田さんは、そこで衝撃的な出会いを経験したのだ。

「久しぶりの実家は新築に建て替えられていて、障子やふすまなど至るところに墨痕淋漓たる母親の書が書かれていたのです。驚きました。僕が知っていたお習字で書く字とはまったく別の、まさにアートとしての『書』がそこにはあったからです」

その衝撃に押されるように、武田さんは社員寮で書道を再開、会社では筆ペンでメモ書きを認めた。それを見た同僚から次々と「自分の名前も書いてほしい」と頼まれ、改めて書の持つ力を実感した。

ほどなく武田さんは会社を辞めて書道教室を開き、書道のストリートパフォーマンスを始めた。すると、その生き方が面白いと雑誌の取材が舞い込

み、企業のロゴや映画・TV番組の題字制作の依頼も来るようになるなど、とんとん拍子に道が開ける。気がつけば書道教室の生徒は300人にもなっていた。

個性を活かしつつ
全体の調和を実現

そんな武田さんの心に残る忘れられない曲は「We Are The World」だ。中学生の頃にマイケル・ジャクソンが好きになってからこの歌もよく聴いたが、あくまでも大ヒット曲のひとつとししか認識していなかった。この歌の真の凄さを

知ったのは、ある日、書道教室の生徒さんが貸してくれた、この曲の収録風景を記録したドキュメンタリー映像を見た時だった。映像は、クインシー・ジョーンズやマイケル・ジャクソン、ライオネル・リッチーといった当代を代表する歌手た

ちが音楽スタジオに集まるところから始まっていた。

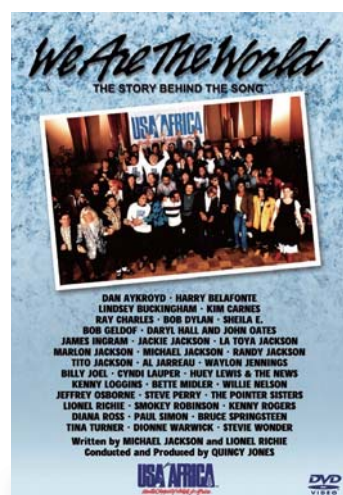
「まったく個性の違うアーティストたちがアフリカの飢餓を救うという目的のために集まり、次第にひとつにまとまっていききました。それぞれの個性を発揮しながら、最後は見事なハーモニーを奏でていることに涙が流れました。100回以上は見たとします」

武田さんは、この曲に自分が書道で目指しているものの理想的な姿を見た。個性を出すことは、時に衝突を招きかねないが、武田さんが書道教室で大切にしているのは、何よりもその人の持つ個性をいかに引き出すかであり、同時にその個性をお互いに尊重し合うことであるという。「和をもって貴しとなす」だけでなく、「個性の和をもって貴しとなす」。どうやらこれが、武田流書道の極意である。

楽曲について

アフリカの飢餓を救うためにつくられたキャンペーンソングの収録風景を記録したDVD。作詞・作曲はマイケル・ジャクソンとライオネル・リッチー、プロデューサーは、クインシー・ジョーンズとマイケル・オマーティン。

1985年1月28日、この曲を録音するため、ミュージシャンたちはスタジオに集まった。参加者はほかにレイ・チャールズ、ステイビー・ワンダー、アル・ジャロウ、ダイアナ・ロス、ボブ・ディラン、ポール・サイモン、ディオヌ・ワーウィック、シンディ・ローパー、ベリー・ジョエルなど総勢45名。夜を徹して収録が行われたこの曲は、CD発売と同時に世界的な大ヒットを記録、印税はすべて寄付された。



「We Are The World
The Story Behind The Song」

発売・販売元：株式会社ハビネット
HMBR-1094 価格：2,300円（税抜き）
©1985 United Support of Artists
for Africa



たけだ・そうん●1975年熊本県生まれ。母親は書道家の武田双葉。情報通信会社に勤めたのち書道家として独立。映画『春の雪』『北の零年』、NHK大河ドラマ『天地人』等の題字や企業のロゴなどを手がけるほか、音楽家、彫刻家等のアーティストとのコラボレーションも多い。

かんばる 地方都市

第8回

和歌山県田辺市

外国人目線で考え、
地域と連携して世界的な観光地に！



田辺市
こんな
ところ

- 人口：約7万8000人
- 面積：1,026.91km²（近畿にある市の中で最大）
- 概要：南紀の商業、観光の中心都市。
2005年、5市町村が合併、新「田辺市」となる
- 特徴：2004年に世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部が含まれている
- 特産品：梅、みかん、紀州備長炭、なんば焼（かまぼこ）など



TOPIC

近年、熊野古道をボランティアで維持・修復する「道普請」に取り組む人々が増えている。なかには、古道ウォークと道普請を組み合わせたツアーが企画される例もあり、社会貢献活動の一環で道普請に取り組む企業も増えてきた。世界遺産「熊野古道」は、こうした人々の活動によって支えられている。

今回の
キーパーソン



一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー 会長
多田 稔子さん ただのりこ



一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー
事務局長
竹本 昌人さん たけもと・まさひと

熊野古道は道そのものが世界遺産なので、歩く人が最後の風景を完成させます。その風景をイメージしながら活用と保全を両立させたいですね。

最近、地域側から声をかけられる機会が増え、積極性が生まれてきたと感じています。これも活動の成果と思うとうれしいですね。



外国人個人旅行者の増加に大きく貢献したブラッド・トウルさん。

世界中の人々が熊野詣でに

世界遺産は一般に、登録から3年くらいたつと、観光客数が減っていくといわれる。しかし、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部を擁する田辺市は観光客数を着実に伸ばし、今では数多くの外国人個人旅行者（FIT）も惹きつけている。熊野を世界的な観光地に育てた田辺市熊野ツーリズムビューロー（以下、ビューロー）会長の多田稔子さんに熊野の魅力について伺った。

「田辺の人々は世界遺産に強い愛情を持ち、時間をかけて熊野の魅力を育んできました。例えば、田辺市の学校では、世界遺産を授業で取り上げ、熊野古道のジュニア語り部を養成しています。地元の人々や様々

外国人目線でサポート

ビューローが設立されたのは2006年。前年に新「田辺市」が誕生し、世界遺産を世界に向けてPRする機運の高まりを受けて生まれてきた。熊野古道沿いには小さな宿が多いこと、熊野のよさをしっ

な組織が連携しながら地域の魅力を高めているのです」
多田さんは時に屈託のない笑顔で人に語りかける。一方、ビューローの活動が軌道に乗るまで資金・人集めに奔走し、「何年もつか」という周囲の陰口をはねのけてきたのも多田さんだ。そんなしなやかさと強さを併せ持っているからこそ、現在に至る流れをつくれたのだろう。



藤谷浩介の ここがポイント!

日本の世界遺産のなかで屈指にリピーターの多い熊野古道。その魅力の発信源「田辺市熊野ツーリズムビューロー」の、そのまた中心人物が多田裕子さんです。企業経営者としても多忙を極めながら、いつも明るい笑顔、顔を絶やさない姿に、熊野ファンは増えるばかりです。

またに、こうすけ●日本総合研究所 主席研究員。日本の全市町村を訪問し、地域特性を多面的に把握。登壇・出演・寄稿等は年間1300件を超える。著書に『里山資本主義』『しなやかな日本列島のつくりかた』など。



▲ビューローを支えるスタッフの方々(左から5人めがブラッドさん)。

◀1階田辺市観光センターの常勤スタッフもビューローのメンバー。



日英併記のエリアマップを観光地ごとに作成している。

外国人観光客への対応の仕方を指南するセミナー。観光にかかわる地元の様々な人を対象に地道に取り組んできた。



ビューローのホームページは、日英仏西中韓(西はスペイン語)の6カ国語で整備されている。



ツアーによるメディアやエージェント向けPRもビューローの重要な役割のひとつだ。



観光客が熊野古道で迷わないように、日英併記の看板を所要所に整備。ビューローがノウハウを提供し、行政がハードの整備を進めた。

「外国人にきてもらうには、外国人の目線で考えることが重要です。ブラッドは熊野が大好きで、すでに熊野古道の大半を踏破していました。FIITの受け入れに必要なこと、地域との接点の持ち方など、彼の目を通して全部実行できました」

設立当初のメンバーは4名。この体制で、ホームページの多言語化、メディア・エージェントツアーなどの情報整理・発信事業と、事業者向けセミナー、エリアマップの作成などの現地レベルアップ事業を精力的に進めてきた。外国人目線で考える手法はエリアマップの作成にも活かされている。事務局長の竹本昌人さんは「海外の方は、熊野古道にきているという意識が強く、広域的に考える必要がありますから、

かりと理解する人に来てほしかったことから、多田さんは目的意識を持った欧米豪のFIITにターゲットを絞る。一見無謀なアイデアだったが、カナダ人ブラッド・トウルさんの加入が大きな転機となった。

「外国人にきてもらうには、外国人の目線で考えることが重要です。ブラッドは熊野が大好きで、すでに熊野古道の大半を踏破していました。FIITの受け入れに必要なこと、地域との接点の持ち方など、彼の目を通して全部実行できました」

町屋再生にも挑戦

田辺以外に、新宮や那智勝浦のエリアマップも作成しました」と語る。

2010年には法人格を取得し、旅行予約システムを構築して旅行業を開始。旅行に関する様々な企画を売り、観光客を目的地に運ぶ仕組みも整えた。これにより、目的地(着地)側でFIITに対してきめ細かくサポートできる着地型旅行業の体制が整い、ビューローが大きく飛躍する足がかりとなった。

多田さんは「ほどよく街で、ほどよく田舎な田辺が大好き」だという。この思いが、彼女の活動の原動力になっているのだ。

「紺屋町屋は稼働状況がよく、成功しています。しかし、今後も空き家を改修するには多額の資金が必要で、全部一棟貸しの旅館にする、民業圧迫といわれかねません。空き家を有効活用する新しい仕組みが必要で、今はそれを模索している段階です」

笹巻あんぷ

【特定原材料】小麦

お
も
て
菓
子



お取り寄せは、こちらから <http://www.fu-zen.com/>

「お土産として持って行く、とても喜ばれるんです」と地元の人に、現在大絶賛されているのが、今回の「笹巻あんぷ」です。生麩屋として、約200年前の文政年間に創業し、高野山の奥之院に御用麩を献上していた老舗店「麩善」が、30年前に商品化した。

「あんぷ」とは、こしあんを生麩で包んだおまんじゅうのことですが、高野山や付近の宿坊で食べられる「あんぷ」は、精進料理のひとつとして、温める、蒸すなどといった調理がなされていました。そこで、九代目植田博夫氏の父克彦氏が、もっと手軽に、そのままでもおいしく食べられる「あんぷ」をつくりたいと研究を開始。熊笹の入手、よもぎ麩と調和するあんこの甘さ加減、麩の歯ごたえなど……、苦労、工夫の連続でした。

「小学生の頃、父がつくった試作品を何度か食

べましたが、最初は熊笹に、よもぎ麩がくっついてしまい、食べにくかったことを覚えています」と博夫氏が語るように、熊笹からすると離れる現在の形になるまでには、何度も失敗を繰り返したといいます。

現在は博夫氏が、伝統ある生麩専門店ならではの柔らかく、もっちりとした生麩の歯ごたえと、先代が開発した味を守り続けるために、天気や気温にも気を配りながら、1個1個丁寧に作り続けています。

そんな博夫氏の夢は、高野山を訪れた方に、出来立てを召し上がっていただけるように、喫茶室をオープンさせることだそうです。



このグルテンの粘り強さが決め手！

プロから、ひと言！

緑鮮やかな熊笹を開くと笹の香りがふわっと広がり、さすが霊峰高野山の澄んだ空気が歴史を感じさせてくれるお菓子です。厚みのある生麩とこしあんの絶妙なバランスには素朴ながらも品があり、不意の来客へのお茶請けに冷凍ストックしておく、と重宝しますね。

料理研究家
フードコンサルタント

上村 泰子氏



かみむら・やすこ
フード・アイ代表。企業やレストランのフードコンサルティング、メニュー開発に長年従事し、新聞、雑誌、講演会などでも活躍。著書や監修本は60冊以上ある。簡単でヘルシーな料理提案と親しみやすい解説で人気を得ている。